

父親の育児協力・夫婦の対話 と母親の育児満足度との関連性

渡邊タミ子¹⁾, 鈴木奈緒²⁾, 長嶋純子³⁾
横森愛子¹⁾, 茂手木明美¹⁾, 比江島欣慎⁴⁾

要旨:本研究は, 父親の育児認識や協力状況を把握し, さらに父親との意志疎通と母親の育児への満足度との関連性を明らかにすることを目的とした。その研究方法は, 自記式質問紙法で保育園に通っている0~4歳児までの両親230組を対象にして実施した。その結果は, 有効回収率が230組中140組(60.9%)で, 以下のように要約される。

1. 父親の協力に対する母親の育児満足は, 1日の対話時間が長い程, 有意に高い傾向にあった。
2. 父親の育児協力の中で毎日行う行為は, 「入浴の世話」40%, 「遊び相手」36%, 「啼泣時」19%の順で高かった。「時々する」行為の割合は, 全項目共60~70%の割合であった。
3. 父親の育児観は, 「夫婦主体」が全体の70%で, 「妻が主体, 夫は補助」の30%を大きく上回った。また, 役割分担では, 「自然に決まった」が全体の30%で, 「話し合う」が9%とかなり少なかった。

キーワード: 育児観 父親 母親 意志疎通 満足度 役割意識

1 はじめに

育児の孤立化や育児困難感を強める現代社会を背景にして「育児をしない男を父と呼ばない」キャンペーンが政府広報としてマスコミに流れた。社会の父親・男性に子育てへの参加意識や父親としての役割認識を高めることをねらいとしている。父親の育児遂行割合は, 一般的に年々増加傾向にあるが, 育児の場面によって協力度に差を認める。それに対する母親の満足度は必ずしも高くなく, 不満をもっているものが少なくない¹⁾。家庭内での役割分担が双方の了解上にあるわけではない。父親の育児遂行と母親の満足度との間を繋ぐものは何だろうか。

近年, 女性の社会進出や近隣の人々との関係の希薄化が進展している。そのため従来の伝統的性別役割観を超えた役割意識をもつことが求められている。家庭での家事・育児に関する役割分担について意識的に取り組まなければならない。

そこで本研究は, 乳幼児のいる家庭生活における父親の家事・育児に対する協力状況, 両親の育児観や役割分担等を把握する。さらに, 父親との意志疎通と母親の育児に対する満足度との関連性を明らかにし, 育児援助を効果的に行うための資料を得ることを目的とした。

2 対象と方法

1) 調査対象

Y県の公立保育園(4ヶ所)に通う0~4歳の乳幼児の

いる両親で, 調査趣旨を説明し同意の得られた230組を調査対象とした。

2) 調査方法

自記式質問紙法で, 各保育園のクラス担当の保育士を通じて両親への配布を依頼し, 留置調査を行った。なお調査票への回答は, 夫婦間で相談せず独自で記入する。その後, 父親用/母親用と明記した個別の封筒に調査票を入れて封印の上で, 所定の回収箱に投函するように依頼し調査を実施した。

3) 調査内容

- (1) 父親用: 基本属性: 年齢, 職業, 子どもの数, 家族形態, 帰宅時間等, 家事に対する協力状況; a. 食事の支度, b. 食後の後片づけ, c. 買い物, d. 掃除, e. 洗濯の5項目, 育児に対する協力状況; a. 入浴の世話, b. 排泄の世話, c. 授乳・食事の世話, d. 啼泣時の世話, e. 遊び相手, の5項目。なお, の回答法は, それぞれ「いつもする」「時々する」「全然しない」の3件法, 両親の一日の対話時間, 「ほとんどなし」「30分位」「1時間位」「2時間以上」の4件法, 父親からみた母親の対話満足度の評価(予想)を, 「5.非常に満足」~「1.不満足」の5件法, 育児観: a. 夫婦主体, b. 妻主体/夫補助, c. 夫主体/妻補助, 夫婦の役割分担法, a. 夫婦で話し合い, b. 自然に決まった, c. 相手からの期待の3項目, その回答法は, 「よくある」「たまにある」「ない」の3件法。役割分担の満足度

- (2) 母親用: 年齢, 職業, 父親の家事・育児協力に対する満足度(各5項目); 「5.非常に満足」~「1.不満足」の5件法, 一日の両親の対話時間に対する満足度; 「5.非常に満足」~「1.不満足」の5件法。育児観, 役割分担の満足度等; 父親用と同内容。

1) 山梨医科大学医学部看護学科

2) 信州大学医療短期大学専攻科

3) 済生会宇都宮病院

4) 山梨医科大学 数理情報学科

以上の内容項目は、両親が個別に回答することを前提に内容を設定した。

4) 分析方法

- (1) 父親の家事及び育児協力に対する母親の満足度は、5段階評定尺度法であったが、データの偏りから尺度5~4を「満足群」、尺度3を「中度群」、尺度2~1を「不満足群」に便宜上3群に分類した。さらに、育児の5項目に対する回答を得点化し、その総合得点を算出した。得点が高い程、満足度が高いことを示した。その得点の高い方から25%を満足度「高群」、最も低い得点から25%を「低群」、その両群の間を「中群」の3群に分類した。
- (2) 父親の育児協力度度については、母親の満足度と同様にデータを処理した。
- (3) 両親の対話時間は、「ほとんどなし」「30分位」「1時間位」「2時間以上」を4群に分類した。
- (4) 父親の帰宅時間は、「8時前」「8時以降」「不定」の3項目について分析した。

表1 対象者の特性

n=140		
項目	平均値(標準偏差)	人数(%)
年齢		
父親	33.9 (5.4)	
20 - 24歳		3 (2.1)
25 - 29歳		28 (20.0)
30 - 34歳		50 (35.7)
35 - 39歳		37 (26.4)
40 - 44歳		17 (12.1)
45歳以上		5 (3.6)
母親	31.8 (3.9)	
20 - 24歳		3 (2.2)
25 - 29歳		38 (28.4)
30 - 34歳		60 (44.8)
35 - 39歳		27 (20.1)
40 - 44歳		6 (4.5)
対象児	2.2 (1.2)	
職業父親		
会社員		94 (67.1)
自営業		23 (16.4)
公務員		12 (8.6)
その他		11 (7.9)
母親		
専業主婦		38 (27.1)
常勤		34 (24.3)
パート		49 (35.0)
その他		19 (13.6)
父親の帰宅時間		
8時前		60 (43.2)
8時以降		30 (21.6)
不定		38 (27.3)
その他		11 (7.9)
子どもの数	1.9 (0.6)	
結婚年数	6.2 (2.5)	
家族形態		
核家族		119 (85.0)
拡大家族		21 (15.0)

「その他」の回答内容にばらつきを認め除外した。

なお、データの集計や分析には、SPSS10.0J for windowsを用いた。家事及び育児に対する父親の協力時間と家族形態・帰宅時間との関連性、両親の対話状況と母親の対話満足度・母親の育児満足度との関連性、父親が認識した母親の対話満足度と母親自身の対話満足度との関連性、そして両親の育児観と父親の育児協力度・母親の対話満足度・育児満足度との関連性の解析

表2-a 家事に対する父親の協力状況 - 家族形態別 -

項目	いつもする	時々する	全然しない	計	検定値 2)
家事面					
食事の支度	核家族 6 (4.3)	59 (42.1)	54 (38.6)	119 (85.0)	5.14
	拡大家族 0 (0)	6 (4.3)	15 (10.7)	21 (15.0)	p=.023
	計 6 (4.3)	65 (46.4)	69 (49.3)	140 (100.0)	
食後の後片づけ	核家族 10 (7.2)	73 (52.5)	35 (25.2)	118 (84.9)	10.59
	拡大家族 0 (0)	7 (5.0)	14 (10.1)	21 (15.1)	p=.001
	計 10 (7.2)	80 (57.5)	49 (35.3)	139 (100.0)	
買い物	核家族 14 (10.0)	75 (53.6)	30 (21.4)	119 (85.0)	1.17
	拡大家族 1 (0.7)	13 (9.3)	7 (5.0)	21 (15.0)	p=.280
	計 15 (10.7)	88 (62.9)	37 (26.4)	140 (100.0)	
掃除	核家族 6 (4.3)	67 (48.2)	45 (32.4)	118 (84.9)	8.347
	拡大家族 0 (0)	6 (4.3)	15 (10.8)	21 (15.1)	p=.015
	計 6 (4.3)	73 (52.5)	60 (33.2)	139 (100.0)	
洗濯	核家族 3 (2.2)	38 (27.3)	77 (55.4)	118 (84.9)	7.14
	拡大家族 0 (0)	1 (0.7)	20 (14.4)	21 (15.1)	p=.008
	計 3 (2.2)	39 (28.0)	97 (69.8)	139 (100.0)	

注) 検定法は、Mantel-Haenzel検定法を用いた。()内は%を示す。

表2-b 育児に対する父親の協力状況 - 家族形態別・父親の帰宅時

項目	いつもする	時々する	全然しない	計	検定値 2)
家族形態別					
入浴の世話	核家族 52 (37.1)	60 (42.9)	7 (5.0)	119 (85.0)	0.93
	拡大家族 8 (5.7)	10 (7.1)	3 (2.1)	21 (15.0)	p=.334
	計 60 (42.8)	70 (50.0)	10 (7.1)	140 (100.0)	
排泄の世話	核家族 21 (15.1)	84 (60.4)	13 (9.4)	118 (84.9)	2.67
	拡大家族 2 (1.4)	14 (10.1)	5 (3.6)	21 (15.1)	p=.102
	計 22 (16.5)	98 (70.5)	18 (12.0)	139 (100.0)	
授乳・食事	核家族 16 (11.8)	82 (60.3)	18 (13.2)	116 (85.3)	3.07
	拡大家族 1 (0.7)	13 (9.6)	6 (4.4)	20 (14.7)	p=.080
	計 17 (12.5)	95 (69.9)	24 (17.6)	136 (100.0)	
啼泣時の世	核家族 23 (16.7)	85 (61.6)	9 (6.5)	117 (84.8)	2.89
	拡大家族 3 (2.2)	13 (9.4)	5 (3.6)	21 (15.2)	p=.089
	計 26 (18.9)	98 (71.0)	14 (10.1)	138 (100.0)	
遊び相手	核家族 46 (33.1)	63 (45.3)	9 (6.5)	118 (84.9)	1.48
	拡大家族 4 (2.9)	16 (11.5)	1 (0.7)	21 (15.1)	p=.224
	計 50 (36.0)	79 (56.8)	10 (7.2)	139 (100.0)	
父親の帰宅時間別					
入浴の世話	8時前 38 (29.7)	21 (16.4)	1 (0.8)	60 (46.9)	18.90
	8時以降 7 (5.5)	21 (16.4)	2 (1.6)	30 (23.4)	p<.001
	不定 10 (7.8)	21 (16.4)	7 (5.5)	38 (29.7)	
	計 55 (43.0)	63 (49.2)	10 (7.9)	128 (100.0)	
排泄の世話	8時前 14 (11.0)	43 (33.9)	3 (2.4)	60 (47.3)	5.12
	8時以降 2 (1.6)	22 (17.3)	6 (4.7)	30 (23.6)	P=.024
	不定 6 (4.7)	23 (18.1)	8 (6.3)	37 (29.1)	
	計 22 (7.1)	88 (69.3)	17 (13.4)	127 (100.0)	
授乳・食事	8時前 13 (10.5)	41 (33.1)	5 (4.0)	59 (47.6)	13.13
	8時以降 0 (0)	25 (20.2)	4 (3.2)	29 (23.4)	P<.001
	不定 3 (2.3)	20 (16.1)	13 (10.5)	36 (29.0)	
	計 16 (12.8)	86 (69.4)	22 (17.7)	124 (100.0)	
啼泣時の世	8時前 17 (13.5)	40 (31.7)	2 (1.6)	59 (46.8)	7.45
	8時以降 1 (0.8)	24 (19.0)	4 (3.2)	29 (23.0)	p=.006
	不定 6 (4.8)	25 (19.8)	7 (5.6)	38 (30.2)	
	計 24 (19.1)	89 (70.5)	13 (10.4)	124 (100.0)	
遊び相手	8時前 30 (23.6)	28 (22.0)	2 (1.6)	60 (47.2)	6.37
	8時以降 2 (1.6)	26 (20.5)	1 (0.8)	29 (22.9)	P=.012
	不定 14 (11.0)	17 (13.4)	7 (5.5)	38 (29.9)	
	計 46 (36.2)	71 (55.9)	10 (7.9)	127 (100.0)	

注) 検定法は、注) 検定法は、Mantel-Haenzel検定法を用いた。()内は%を示す。

には、Mantel-Haenszel検定を用いた。また両親の育児観の一致度については、McNemar検定を用いた。

3 結果

回収率は230組中146組(63.8%)であった。回答不明や無回答の多いものを除いた有効回答140組(60.9%)を分析対象とした。

1) 対象の特性

対象の特性は、表1に示すとおりである。両親の平均年齢は、父親が33.9歳、母親が31.8歳で、年齢区分では双方とも30 - 34歳代の割合が最も多かった。対象児の平均年齢は2.2歳で、子どもの数は1.9名であった。

また、両親の職業では、父親は、会社員が67.1%、次いで自営業が16.4%であった。また、父親の帰宅時間は、8時前が43.2%で、次いで不定が27.3%等であった。母親の就業形態は、パートが35.0%、専業主婦が27.1%、常勤が24.3%であった。

そして両親の結婚平均年数は6.2年で、家族構成は、核家族が全体の85%であった。

2) 家事に対する父親の協力状況

まず家庭生活における家事に対する父親の協力状況は、表2 - aに示したとおりである。

5項目の家事項目の中で「いつもする」は、全体的に極少数である。「時々する」は、「買い物」が62.9%、「食後の後片づけ」が57.6%、「掃除」52.5%等であった。「全然しない」は、「洗濯」が約70%で、その割合が他の4項目よりも20~40%程高かった。さらに、これを家族形態別にみると、5項目中3項目の「食事の支度」($\chi^2 = 5.14, p = .023$)、「食後の後片づけ」($\chi^2 = 10.59, p = .001$)、「掃除」($\chi^2 = 8.347, p = .015$)、「洗濯」($\chi^2 = 7.14, p = .008$)に、拡大家族の父親の方が核家族の父親よりも家事面への協力割合が有意に低かった。

3) 育児に対する父親の協力状況

まず、父親の育児に対する協力状況は、表2 - bに示したとおりである。家事面に比較して、「いつもする」割合は、全体的に高くなっている。それは「入浴の世話」が全体の42.8%、次に「遊び相手」が36.0%であった。他の3項目は、10%程度であった。「時々する」は、「啼泣時の世話」「排泄の世話」「授乳・食事の世話」がいずれも70%前後で高い。従って「いつもする」と「時々」とを合算した割合は、5項目とも90%前後となった。

従って「全然しない」は、5項目とも10%前後で低かった。全体的に、父親の育児に対する協力割合は、家事面に比較してかなり高い。

家族形態別の比較では、5項目とも「核家族」と「拡大家族」との間には、父親の育児に対する協力程度に関連性を認めなかった。

父親の帰宅時間別の比較では、「入浴の世話」($\chi^2 = 18.90, p < .001$)、「排泄の世話」($\chi^2 = 5.12, p = .024$)、「授乳・食事の世話」($\chi^2 = 13.13, p < .001$)、「啼泣時の世話」($\chi^2 = 7.45, p = .006$)「遊び相手」($\chi^2 = 6.37, p = .012$)の5項目に、帰宅時間と父親の協力状況との間には有意な関連性を認めた。特に、「8時前」に帰宅する父親の方が「8時以降」や「不定」の父親よりも育児協力の割合が高い傾向にあった。

その他、両親の職業・子どもの数・結婚年数等の基本属性と、父親の育児協力の程度との間には関連性を認めなかった。

4) 両親の対話状況と父親の育児協力に対する母親の満足度との関連性

まず、両親の一日の対話状況は、表3 - aに示したとおりである。両親の対話時間は、「30分位」が30.7%、「1

表3-a 両親の対話状況と父親の育児協力に対する母親の満足度との関連性

項目	ほとんどな	一日の対話状況				計	検定値(2)
		30分位	1時間位	2時間以上			
小計	22 (16.1)	42 (30.7)	40 (29.2)	33 (24.1)	137 (100)		
<入浴の世話> n=133	不満足群 10 (7.5)	9 (6.8)	3 (2.3)	2 (1.5)	24 (18.0)		
	中度群 5 (3.8)	9 (6.8)	14 (10.5)	8 (6.0)	36 (27.1)	16.47	
	満足群 5 (3.8)	20 (15.0)	25 (18.8)	23 (17.3)	73 (54.9)	p<.001	
<おむつ交換の世話> n=132	不満足群 11 (8.3)	13 (9.8)	6 (4.5)	2 (1.5)	32 (24.2)		
	中度群 3 (2.3)	8 (6.1)	14 (10.6)	8 (6.1)	33 (25.0)	13.24	
	満足群 7 (5.3)	19 (14.4)	19 (14.4)	22 (16.7)	67 (50.8)	p<.001	
<授乳・食事の世話> n=132	不満足群 10 (7.6)	11 (8.3)	11 (8.3)	2 (1.5)	34 (25.8)		
	中度群 4 (3.0)	15 (11.4)	12 (9.1)	7 (5.3)	35 (25.8)	13.77	
	満足群 6 (4.5)	14 (10.6)	17 (12.9)	23 (17.4)	49 (36.8)	p<.001	
<啼泣時の世話> n=137	不満足群 11 (8.0)	12 (8.8)	9 (6.6)	3 (2.2)	35 (25.5)		
	中度群 5 (3.6)	9 (6.6)	13 (9.5)	6 (4.4)	38 (28.8)	11.97	
	満足群 6 (4.4)	21 (15.3)	19 (13.9)	23 (16.8)	60 (45.5)	p<.001	
<遊びの相手> n=137	不満足群 10 (7.3)	10 (7.3)	9 (6.6)	4 (2.9)	33 (24.1)		
	中度群 6 (4.4)	12 (8.8)	6 (4.4)	8 (5.8)	32 (23.4)	9.33	
	満足群 6 (4.4)	19 (13.9)	27 (19.7)	20 (14.6)	72 (52.6)	p=.002	

注) 検定には、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を示す。

表3-b 両親の対話状況と父親の職業別、自己認識度、母親の満足度との関連性

項目	ほとんどな	一日の対話状況				計	検定値(2)
		30分位	1時間位	2時間以上			
父親の職業別 n=128							
会社員	18 (14.1)	30 (23.4)	29 (22.7)	16 (12.5)	93 (72.7)	12.96	
公務員	0	4 (3.1)	5 (3.9)	3 (2.3)	12 (2.3)	p=.044	
自営業	4 (3.1)	4 (3.1)	4 (3.1)	11 (8.6)	23 (18.0)		
両親の対話時間に対する母親の満足度 n=130							
満足群	4 (3.1)	8 (6.2)	17 (13.1)	21 (16.2)	50 (38.5)	23.15	
中度群	4 (3.1)	14 (10.8)	17 (13.1)	6 (4.6)	41 (31.5)	p<.001	
不満足群	11 (8.5)	17 (13.1)	8 (6.2)	3 (2.3)	39 (30.0)		

注) 検定には、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を示す。

時間位」が29.2%、「2時間以上」が24.1%で、「ほとんどなし」が16.1%の順であった。「ほとんどなし」と「30分位」とを合算した両親の割合は、全体の50%弱であった。一日の中で僅かしか対話時間をもたない両親が多いことがわかった。

次に、父親の育児協力に対する母親の満足状況は、表3-aに示したとおりである。育児の5項目中「入浴の世話」「おむつ交換の世話」「遊び相手」の3項目は、「満足群」が50%程度であった。一方、「不満群」の多い項目は、「授乳・食事の世話」が25.8%、「啼泣時の世話」が25.5%、「おむつ交換」が24.2%であった。最も不満の割合が低かった項目は、「入浴の世話」が18.0%であった。

さらに、父親の育児協力に対する母親の満足度(3群)と両親の対話時間との関連性は、育児の5項目すべてにおいて、対話時間が少ない両親は、父親の育児協力に対して不満をもつ母親が有意に多い傾向にあった。その成績は、「入浴の世話」($\chi^2=16.47, p<.001$)、「おむつ交換」($\chi^2=13.24, p<.001$)、「授乳・食事の世話」($\chi^2=13.77, p<.001$)、「啼泣時の世話」($\chi^2=11.97, p<.001$)、「遊びの相手」($\chi^2=9.33, p=.002$)であった。従って、父親の育児協力に対する母親の満足度と両親の対話時間の長さとの間には関連性を認められた。

5) 両親の対話時間と父親の職種、母親の対話満足度との関連性

夫婦の対話時間と父親の職種、母親の対話に対する満足度との関連性は、表3-bに示したとおりである。

まず父親の職種別は、「会社員」よりも「公務員」「自営業」の方が母親との対話時間が有意に多かった($\chi^2=12.96, p=.044$)。

次に両親の対話時間に対する母親の満足度を程度別にみると、対話時間が少ない両親は、母親の満足度も低く、不満を示す割合が有意に

高い傾向にある($\chi^2=23.14, p<.001$)。また両親の一日の対話時間について、父親が予想した母親の満足度と母親自身の対話に対する満足度との関連性は、表4に示したとおりである。父親が予想した母親の対話満足度と母親自身の対話満足度との間には有意な関連性($\chi^2=16.93, p<.001$)を認めた。つまり、父親と母親との間には、対話に対する満足度が不一致なものが多く認識の違いを認めた。

6) 両親の育児観と父親の育児協力、母親の満足度との関連性

(1) 両親の育児観

両親の育児観は、表5に示したとおりである。父親の

表6-a 両親の育児観と育児協力度

		父親の育児協力度				計	検定値(2)
項目		高群	中群	低群			
父親	夫婦主体	38 (28.8)	26 (19.7)	32 (24.2)	96 (72.7)	18.32	P<.001
	妻主体/夫補助	4 (3.0)	4 (3.0)	28 (21.2)	36 (27.3)		
母親	夫婦主体	37 (28.2)	25 (19.1)	49 (37.4)	111 (84.7)	1.29	p=.257
	妻主体/夫補助	5 (3.8)	3 (2.3)	12 (9.2)	20 (15)		

注) 検定法は、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を表す。

表6-b 両親の育児観と母親の対話時間に対する満足度

		母親の対話時間に対する満足度				計	検定値(2)
項目		高群	中群	低群			
父親	夫婦主体	41 (32.0)	30 (23.4)	23 (18.0)	94 (73.4)	5.69	P=.017
	妻主体/夫補助	9 (7.0)	9 (7.0)	16 (12.5)	34 (26.6)		
母親	夫婦主体	40 (32.0)	34 (27.2)	31 (24.8)	105 (84.0)	0.18	P=.674
	妻主体/夫補助	8 (6.4)	4 (3.2)	8 (6.4)	20 (16.0)		

注) 検定法は、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を表す。

表6-c 両親の育児観と母親の育児満足度

		母親の育児満足度				計	検定値(2)
項目		高群	中群	低群			
父親	夫婦主体	36 (28.3)	42 (33.1)	16 (12.6)	94 (74.0)	16.04	p<.001
	妻主体/夫補助	3 (2.4)	14 (11.0)	16 (12.6)	33 (26.0)		
母親	夫婦主体	32 (25.4)	45 (35.7)	29 (23.0)	106 (84.1)	0.15	P=.076
	妻主体/夫補助	6 (4.8)	10 (7.9)	4 (3.2)	20 (15.9)		

注) 検定法は、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を表す。

表4 両親の対話時間に対する父親による母親の満足度(予想)と母親の満足度との関連性

項目	父—親			計	検定(2)	
	予想満足群	予想中満足群	予想不満足群			
母親	満足群	19 (14.8)	20 (15.6)	12 (9.4)	51 (39.8)	16.93
	中満足群	9 (7.0)	17 (13.3)	12 (9.4)	38 (29.7)	
父親	不満足群	4 (3.1)	9 (7.0)	26 (20.3)	39 (30.5)	p<.001
	計	32 (25.0)	46 (35.9)	50 (39.1)	128 (100.0)	

注) 検定法は、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を表す。

表5 両親の育児観

項目	父—親			計	検定(2)
	夫婦主体	妻主体/夫補助			
母親	夫婦主体	86 (66.2)	24 (18.5)	110 (84.6)	5.765
	妻主体/夫補助	10 (7.7)	10 (7.7)	20 (15.4)	
父親	夫婦主体	96 (73.8)	34 (26.2)	130 (100)	p=.024
	妻主体/夫補助				

注) 検定法は、McNemar検定を用いた。また、()内は、%を表す。

育児観は、「夫婦主体」が73.8%、「妻主体/夫補助」が26.2%であった。母親の場合は、「夫婦主体」が84.6%で、「妻主体/夫補助」が15.4%であった。両親の育児観は、父親と母親との間に、有意な認識の違いを認めた($\chi^2=5.765, P=.024$)。育児について「妻主体/夫補助」と認識している父親の中に、「夫婦主体」という育児観をもつ母親が34名中24名(70.6%)と高い割合を示した。夫婦間の不一致を認めた。

(2) 両親の育児観と父親の育児協力、及び母親の満足度との関連性

両親の育児観と父親の育児協力との関連性は、表6-aに示したとおりである。育児協力面では、「夫婦主体」の育児観をもつ父親は、「妻主体/夫補助」の育児観をもつ父親よりも

育児に協力する割合が有意に高かった ($\chi^2 = 20.98, p < 0.001$)。

両親の育児観と母親の対話時間の満足度との関連性は、表6-bのとおりである。「夫婦主体」の育児観をもつ父親は、両親の対話時間に対する母親の満足度が有意に高かった ($\chi^2 = 20.79, p < 0.001$)。

最後に、両親の育児観と母親の育児満足度との関連性は、表6-cに示したとおりである。「夫婦主体」の育児観をもつ父親は、母親の育児に対する満足度が有意に高い ($\chi^2 = 16.04, p < 0.001$)。

一方、母親の育児観の比較では、父親の育児協力、対話時間の満足度、育児満足度との間に関連性を認めなかった。

7) 両親の役割分担の満足度、及びその役割の決め方

表7 両親の役割分担満足

項目	父 親			計	検定値(χ^2)
	満足群	中度群	不満足		
母 満足群	33 (24.8)	24 (18.0)	0 (0)	57 (42.9)	9.70 p=.002
親 中満足群	11 (8.3)	30 (22.6)	4 (3.0)	45 (33.8)	
不満足群	11 (8.3)	16 (12.0)	4 (3.0)	31 (23.3)	
小 計	55 (41.4)	70 (52.6)	8 (6.0)	133 (100.0)	

注) 検定法は、Mantel-Haenszel検定法を用いた。また、()内は、%を表す。

家庭における役割分担の満足度に関する父親と母親の比較は、表7に示したとおりである。まず母親の立場からみた役割分担の満足度は、「満足群」が全体の42.9%、「中度群」が33.8%、「不満群」が23.3%であった。母親は、父親に比較して役割分担に対して不満を示す割合が約17%程高い。家事や育児に関する役割分担への満足度は、不一致を示した両親の割合が有意に高いことがわかった ($\chi^2 = 9.70, p = .002$)。

表8 家事・育児の役割分担の決め方

項目	よくある	たまにある	ない	計
夫婦で話し合う	13 (9.4)	18 (13.1)	107 (77.5)	138 (100.0)
自然に決まった	41 (29.7)	80 (58.0)	17 (12.3)	138 (100.0)
相手からの期待	4 (2.9)	18 (13.0)	116 (84.1)	138 (100.0)

注)()内は、%を示す。

家庭生活における両親の役割分担について、普段行っている決め方は、表8に示したとおりである。「夫婦で話し合う」は、「よくある」と「たまにある」を合わせても全体の22.3%であった。決め方の中で最も多かったのは、「自然に決まった」が29.7%で、「たまにある」を含めると全体の87.7%であった。もし、役割分担について意見が不一致の場合は、「話し合って二人で納得して結論だす」が48名(35.0%)で、次いで「いずれかの期待どおり」が34名(24.3%)であった。

4 考察

保育園に通っている乳幼児をもつ両親を対象に、父親の家事や育児への協力、育児観と母親の育児に対する満足との関連性を中心に考察する。

1) 父親の家事・育児の協力状況

まず家庭における父親の家事協力についてみると、本調査では、「いつも」・「時々」を含めると「洗濯」を除く4項目が50%の父親が行っていた。平成10年に人口問題研究所が行った人口問題研究所の『平成10年度全国家庭動向調査』¹⁾は、週1、2回以上を目安に役割遂行を把握している。「ゴミ出し」「日常の買い物」等の特定の場面が各30%強で、その他の項目が20%前後の遂行割合である。これと比較すると、本調査結果の方が全般的に家事への協力度が全国調査よりも高い状況にあるのを示している。

次に、父親の育児協力面についてみる。夫の育児遂行割合を調査した平成10年度の全国調査は、排泄の世話、就寝時の世話等は40%前後と他の場面より30~40%低く、育児場面によって偏りを認めている。今回の調査結果は、入浴、遊び、排泄、啼泣、食事の5項目全てにおいて、「いつも」・「時々」を合わせると、全体の80~90%の割合で育児協力を行っていた。育児場面による偏りがあまりない。これは、北村ら²⁾による乳幼児のいる両親を対象にした同様の研究でも、本調査とほぼ同様の結果を得ており、父親は家事面より育児面によく参加していることを報告している。これは、母親の就業割合が全体の60%と高いことと関連していると推察された。また、父親は、家事よりも育児に対する興味や関心が高いことが示唆された。

また、育児協力に関連すると考えられた子どもの年齢や数、父親の年齢、家族形態等は、牧野³⁾や本村ら⁴⁾の報告と同様に、本調査の結果でも関連性を認めなかった。

2) 父親の育児協力に対する母親の満足度と夫婦の対話状況

父親の育児協力に対する母親の満足度について、今回の調査結果は、父親の育児協力に対する母親の満足度は、「授乳・食事の世話」を除く4項目に全体の50%の母親が満足度を示した。これは、全国家庭動向調査とほぼ同じ割合であった。しかし、高橋ら⁵⁾の調査で、「入浴の世話」に高い満足度を認めたが、その他の項目に対する満足度は低かった。この違いは、対象児の年齢範囲や評定尺度の基準設定がやや異なることが関与していると考えられた。しかし、この事を考慮しても、今回の調査の結果は、父親の育児に対する協力度が高い割には、母親の満足度に十分に反映されていない。3歳児のいる両親を対象にした藤原ら⁶⁾の報告も、父親の育児に対する行動頻度とそれに対する母親の育児評価とは必ずしも一致していない。さらに、母親が育児困難を感じていても、父親の育児行動には変化を認めず、母親のニーズに父親は十分に応えたものになっていないことを指摘している。また、牧野ら⁷⁾は父親が直接的に育児に関わらなくとも育児に責任をもっていると母親が実感できる程、家庭内の夫の態度に十分満足を感じる場合には、育児への満足や喜びを感じてできることを指摘している。

次に、今回の調査結果では、父親の育児協力に対する母親の満足度と両親の対話時間との関連性についてみると、対話時間が長い両親は、育児に対する母親の満足度が高い傾向にあることが明らかになった。佐々木⁸⁾、川崎⁹⁾は、夫婦の精神的な結びつきが強いほど、父親の参加度が高く、また母親の満足度も高いことを報告している。本村¹⁰⁾は、対話時間の長さは、父親が育児参加していると同等の意味をもち、夫婦関係における相互作用の一部として「夫の妻への協力」という意味を含むと言っている。

これらの事からも明らかのように、育児に対する母親の満足度を高めるには、両親の情緒的関係の結びつきを強めることが重要である。その効用の1つとして両親の「対話」のあり方にもっと意欲をもって臨めるように親教育をしていくことが示唆された。

4) 両親の育児観と役割分担の満足度との関連性

今回の調査結果は、育児を夫婦主体で行うものという考え方が全体の80%強で、母親主体であるものという伝統的性別観をもつ人は少数であった。平成12年度男女共同参画に関する全国調査¹¹⁾とほぼ同様の結果であった。これは父親・男性ももっと積極的に育児に参加すべきだという最近の社会的風潮も関係していることは否めない。父親の育児観の違いによる育児協力面への影響は、「夫婦主体」観をもつ父親は、育児面での協力度が高く、両親の対話時間も長い。さらに母親の育児満足度も高いことがわかった。しかし、家事・育児の役割分担に関する決め方は、自然に決めている場合が多い。話し合うものは、少数であった。そのためか、役割分担の満足度は、父親よりも母親の方が不満にもっている割合が高い。これは双方の期待を暗黙のうちに察知して親としての役割遂行を果たしていることが推察される。しかし、双方の期待の間にある不一致について認識し合う時間が不足している様である。両親は、意識的に役割分担について話し合いで決めていない。これは父親と母親との役割期待に対する意志疎通を意図的に行っていない現れと解釈できる。菅原¹²⁾は、父親の役割に関する教育指導において、父親の育児に対する姿勢を、母親が感じ取れるようにすること、具体的な協力範囲を夫婦で決めていくことを提案している。そして堤¹³⁾は、性差によって父親と母親の役割が規定されることを防ぎ、伝統的な性別役割分業を超えて、子育てを「平等」に担っていく感覚を養いし磨いていかなければならないと主張している。

3) 両親の育児観や対話状況からみた育児援助

父親の育児協力に対する様相は、生活条件、育児観や慣習等によって千差万別である。それを前提としながらも、その取り組みに対する母親の満足度は、必ずしも父親の協力体制だけではない。父親は、それを認識しなければならない。夫婦が一体となって織りなす育児の意味や役割分担について対話できる機会を意図的に作る必要が重要である。それを育児援助の中にも含める必要がある。

育児に協力する父親の姿勢や態度は、母親のニーズを

的確に把握した結果としての「現れ」でなければならない。それには父親と母親との意志疎通を図ることが重要である。それを共有できなければならない。それが可能になってはじめて育児に対する平等意識を夫婦の中で育むことが可能になっていくと考える。その過程を通じてこそ、母親がそれを実感でき、育児への満足度を高められる方向にあることが示唆された。

最後に本調査にご協力下さいましたご両親様、保育士の諸先生方に心より深謝を申し上げます。

文献

- 1) 日本子ども家庭総合研究所編(2001)日本子ども資料年鑑2001: 62 - 67.
- 2) 北村愛子(1998)父親の育児参加と保育行動. 第29回日本看護学会論文集, 29: 55 - 57.
- 3) 牧野カツ子(1982)乳幼児をもつ母親の生活と「育児不安」. 家庭教育研究所紀要, 34 - 55.
- 4) 本村汎, 他(1985)育児不安の社会学的考察. 大阪市立 大学生生活科学部紀要, 33: 231 - 243.
- 5) 高橋種昭, 他(1990)小児の養育における父親の役割. 平成2年度厚生省心身障害研究「地域・家庭環境の小児に対する影響に関する研究」, 256 - 266.
- 6) 藤原千恵子, 他(1998)父親の育児行動に関する研究. 小児保健研究, 57(2): 181.
- 7) 前掲2), 34 - 55.
- 8) 佐々木裕子(1998)父親の育児行動と母親の満足度. 小児保健研究57(2): 181.
- 9) 川崎佳代子, 他(2000)育児感情・育児行動の実態及び関連する要因. 母性衛生, 41(1): 158 - 169.
- 10) 前掲5), P231-243.
- 11) 前掲1): 66.
- 12) 菅原守都, 他(2000)母性看護における夫への教育指導. 茨城母性衛生学会誌, 20: 25 - 28.
- 13) 堤マサエ, 他(1992) 章母性概念の再検討. 母性の社会学, 26 - 28.
- 14) LambME, / 久米稔, 他(1976)父親の役割乳幼児の発達との関わり, 家政教育社, 東京.
- 15) 牧野カツコ, 他(1996)子どもの発達と父親の役割, ミネルヴァ書房, 京都.
- 16) 北村愛子(1998)父親の育児参加と育児行動. 第29回日本看護学会論文集, 55 - 57.
- 17) 宮中文字子, 他(1998)新生児期における父親の意識と子育て参加との関連性. 小児保健研究, 57(2): 181.

Abstract

Parent's Attitude and Cooperation in Child Care; and the Relationship of Communication between Father and Mother and the Mother's Satisfaction with His Child Care

**Tamiko WATANABE¹⁾, nao SUZUKI²⁾, Jyunko NAGASHIMA³⁾
Aiko YOKOMORI¹⁾, Akemi MOTEGI¹⁾ and Yoshimitsu HIEJIMA⁴⁾**

This study aims to find out the father's recognition of child care and how he actually cooperates in it, and further clarify the understanding between the father and mother, and her satisfaction with his child care. The study used a questionnaire filled out by participants, targeting 230 couples whose children are 0-4 years old and go to nursery school.

Valid responses were received from 140 of the 230 couples (60.9%) and are summarized below:

1. Mothers who spend more time communicating with fathers on a daily basis reported greater satisfaction with the father's level of involvement in child care.
2. As of frequency of the father's cooperation in child care, the activities fathers said they were always involved in were bathing (40%), playing (36%), and attending to the child when he or she is crying (19%). Overall, 60-70% of fathers sometimes cooperated in these activities.
3. 70% said the father's view of child care is that the couple is most important. This was much 30% more than those who said the wife is the main care provider and the husband is an assistant. Thirty percent said the roles of child care are naturally determined, while only 9% said they discuss the roles.

Key words: view of child care, father, mother, communication, satisfaction, consciousness of roles self-recognition.

1) Yamanashi Medical University, School of Nursing

2) Shinshu University

3) Utsunomiya Hospital

4) Yamanashi Medical University, Mathematical Informative Science